
NUEVA
THIRTY TWO
IHF OFFICIAL BALL

アジア大会に挑む！



（財）日本ハンドボール協会常務理事・強化本部長　蒲生 晴明

日本代表チームのアジア大会成績は右の表のとおりである。

回	開催年	開催都市（国）	日本男子	日本女子	優勝国男子	優勝国女子
9	1982	ニューデリー（インド）	銀	－	CHN	－
10	1986	ソウル（韓国）	銅	－	KOR	－
11	1990	北京（中国）	銀	5位	KOR	KOR
12	1994	広島（日本）	銀	銀	KOR	KOR
13	1998	バンコク（タイ）	銅	銅	KOR	KOR
14	2002	釜山（韓国）	4位	4位	KOR	KOR
15	2006	ドーハ（カタール）				

日本代表チームは、1982年から男女のどちらかが連続でメダルを獲得してきたが、前回の釜山大会で、初めてメダル獲得ができなかった。アジアの競技力では、男女ともに韓国の牙城は破れていないものの、男子については中東諸国の競技力が著しく向上しており、また女子についても、中央アジア諸国が不気味さを持っている。北京オリンピック開催国中国は、韓国からコーチを招聘し韓国のスタイルの戦術に強化されてきた。わが日本代表チームは、男女ともにヨーロッパからコーチを招聘し、新たなる強化をスタートさせた。今回のアジア大会は、そういった意味で、男女ともに来年の北京オリンピックアジア予選を見据え、「男女ともに最低メダル獲得！」を目標にしている。女子については、韓国に絞った戦いが焦点である。男子については、韓国・中国・中東諸国どの国に対しても、気を許せるものはない。

☆男子チーム　15カ国参加

リマニッチ監督の初采配となる公式大会であり期待したい。5月から強化合宿を重ね、11月ジャパンカップを経て、クロアチア遠征で最終的に仕上げてドーハに乗り込むスケジュールを立てている。宮﨑（大崎電気）・門山（トヨタ車体）・富田（大同特殊鋼）など若い選手の台頭で、レギュラー争いが激化している。キャプテン中川（大崎電気）などベテランを交えて、韓国・中国をはじめクウェート・開催地カタールなど中東勢と激しい戦いを勝ち抜いていきたい。

Aグループ……バーレーン、カタール、インド、マカオ
Bグループ……クウェート、中国、香港、イラン
Cグループ……**日本**、ＵＡＥ、ウズベキスタン、サウジアラビア
Dグループ……韓国、レバノン、シリア

☆女子チーム　8カ国参加

7月に行われたアジア選手権では、韓国には引き離されたが、中国と激戦の結果2点差で惜しくも敗れたもののカザフスタンには快勝し、充分手応えを感じることができた。11月のジャパンカップの後、国内合宿を経て、ドーハに乗り込む。バウワー監督が信頼している田中美音子（ソニーセミコンダクタ九州）を中心に機動力を活かし、韓国・中国との激戦をものにしていきたい。

Aグループ……カザフスタン、中国、ウズベキスタン、インド
Bグループ……韓国、**日本**、タイ、チャイニーズタイペイ

のじぎく兵庫国体

第61回国民体育大会ハンドボール競技



■最終結果

成年男子：	優勝 埼玉県、2位 広島県、3位 愛知県、4位 佐賀県 5位 秋田県、東京都、三重県、熊本県
成年女子：	優勝 鹿児島県、2位 石川県、3位 熊本県、4位 岡山県 5位 愛知県、広島県、香川県、福岡県
少年男子：	優勝 神奈川県、2位 兵庫県、3位 京都府、4位 岐阜県 5位 茨城県、埼玉県、富山県、福井県
少年女子：	優勝 富山県、2位 京都府、3位 兵庫県、4位 宮崎県 5位 埼玉県、三重県、大阪府、山口県

総評

兵庫県ハンドボール協会理事長 大原 康昇

「ありがとう・心から・ひょうごから」のスローガンのもと第61回国民体育大会ハンドボール競技は10月6日（金）～10日（火）の期間に成年男子（朝来市・養父市）、成年女子（三田市）、少年男子（高砂市）、少年女子（加古川市）の5市、6会場（朝来市和田山体育センター・養父市八鹿総合体育館・三田市立駒ヶ谷運動公園体育館・三田市立城山公園体育館・高砂市総合体育館・加古川市総合体育館）で熱戦が繰り広げられた。

天皇杯は埼玉県、京都府、地元兵庫県が同得点となり、それぞれ男女総合第1位に、皇后杯は鹿児島県、富山県が同得点で共に第1位となった。種別では成年男子：埼玉県、成年女子：鹿児島県、少年男子：神奈川県、少年女子：富山県がそれぞれ優勝した。

広域地開催

阪神・淡路大震災が平成7年に発生した年末、神戸市より「ぜひ開催」をと第47回全日本総合選手権を始めとして、第49・50回大会の開催、更に'03のアテネオリンピックアジア予選の為のナショナルチームの強化国際試合と多くの事業に取り組んでいた最中の国体開催決定だった。国体事務局では、協会は運営力があるから熊本県のように広域で実施してハンドボールを県内に普及させて下さい、だった。熊本県とは事情が違う事を重々知りながら了承した。幹事市高砂（大会本部）と加古川は隣り合わせだが、本部から朝来・養父市は北西に、三田市は北東にそれぞれ100kmと離れている、熊本県以上の広範囲で、5市での大会開催には不安があった。

5市との合同会議、各市実行委員会との打合せ等、5倍の動力は掛かったが、国体担当の松野常任理事がよくまとめてくれた。また、ハンドボール不毛地、朝来・養父市には推進委員として千葉、丸茂委員が普及活動して小（16）・一般（5）チームが誕生した。

各会場は連日満員であった。特に成年男子決勝は超満員で入場を打ち切った。また、本県の少年（男・女）の活躍で大いに盛り上がった国体であった。

観客数は少な目に見ても、養父市3千人（3日）・朝来市4.5千人（4日）・三田市1万人（5日）・加古川市1万人（5日）・高砂市1万人（5日）と約4万人近くの人々にハンドボール競技を見て頂いたことは広域地大会ならではの最大のメリットではないかと思われる。

今後の課題

半世紀に一度の国体開催は必ず各都道府県には回ってきます。地方協会は開催が決定すれば、大会開催準備と強化対策が行われるのは当然のことですが、最後は強化結果（得点）のプレッシャーがあります。この結果が地方協会活動に大きな影響を及ぼすのは言うまでもありません。国体開催は各競技の認知度を高め、ファン層を広めることができる国内最大の大会で在るゆえ、各競技団体は組み合わせ抽選にしろ、シード権にしろ、競技独特のやり方で、種目の輪を広げようと創意工夫している。日本協会に於いても、ハンドボール発展ため、このような検討をお願いしたい。最後に日本協会を始め、ご指導、ご協力戴いた関係各位に厚くお礼を申し上げると共に、来年度の秋田国体の成功を祈念いたします。

TOPICS

チーム一丸となっての国体出場

東京都（明星クラブ）　北澤 昌明



鈴木監督が今年の３月に明星高校を定年退職した事を期に、全国の舞台でもう一度采配を振るってもらおうと教え子が集まり、国体で日本リーグ勢を破るという意気込みで明星クラブを結成した。

チームの方針として、①鈴木監督の洗練されたスピードハンドボールを目指す②明星の現役のお手本となるプレーを心がける③試合中に審判へのアピールは厳禁、を掲げた。３月11日（土）に始動し、毎週末の人数が多く集まる日を練習日とした。平均年齢が裕に30を超えるだけあり、最初は現役と練習試合をしても20分を過ぎると極端に動きが悪くなり、１試合できるようになるのか不安になった。練習を重ねるごとに良くなり、明星らしい速攻も出るようになったが、クラブチーム相手の練習試合ではパワー不足から９ｍライン内に押し込まれ、ずるずる引きずられて失点するケースが目立ち、課題となった。

都の予選前は、チームの力がどのくらいのレベルにあるのか解からず、不安をもって臨んだが、初戦の大勝で安堵し、その後も決して楽ではなかったが、ある程度の余裕を持って勝ち抜くことができた。6月10日(土)から関東ブロック大会に向けて再始動したが、そこで痛ましい事故が起こってしまった。各自、アップ後、ミニバスケットを始めて間もなく、宇田川敏郎選手が突然倒れ、意識を失いそのまま亡くなってしまった。当日、練習をともにしていたメンバーのショックはひと際大きく、続けるべきか、また続けられるかという気持ちがしばらくあったが、宇田川さんのためにも国体出場を勝ち取らなくてはという気持ちで、チームがいままで以上に結束し、再スタートをきった。

練習を再開できたのは７月１日で、都の予選が終わってから１ケ月以上たってしまい、その上、暑さも加わり、チームをゼロから立て直すことになってしまった。暑さは特に大敵で、体力の消耗により集中力も低下し、チーム内の初歩的な約束事が徹底できないことも度々あり、危機感を持たせられた。

関東ブロック大会の２日目はまさに危機的状態になってしまった。２試合目の神奈川県戦の後半は肉体的にも精神的にも追い込まれ、前半の貯金がなければ危ない試合だった。

数人の選手の体力消耗は尋常でなく、翌日の茨城県との代表決定戦にも影響したが、チーム一丸となって国体出場権をもぎ取った。

国体でも北陸電力の福井県に勝利でき、チーム結成時の目標が達成できた。

TOPICS

試合をインターネットライブ配信



のじぎく兵庫国体では、初めての試みとして、各競技の様子がインターネットで生中継されました。ハンドボール競技では成年男子の試合がライブ中継されました。1回戦では地元兵庫対広島、準々決勝埼玉対秋田、佐賀対三重、準決勝埼玉対佐賀、愛知対広島、3位決定戦と決勝戦です。地元アナウンサーの進行の元、ボランティアの方々の地元紹介などを含めています。解説は日本協会、木野常務理事と村松常務理事、今井敬太兵庫県協会理事が勤めました。（写真は放送席の三好香アナウンサーと放送ボランティア・朝来会場）

録画中継では、開始式、閉会式と成年男子の16試合を見ることができます。なお、録画中継は下記サイトで、平成19年3月31日まで視聴可能です。アクセスをしてみてください。http://www.habatan2006.tv/

成年男子でサイン会開催

成年男子の部は、養父市八鹿（ようか）総合体育館と朝来市和田山体育センターにおいて開催されました。各ブロック予選を勝ち抜いた16チーム参加でしたが、やはり日本リーグを中心とする県が順当に勝ち上がり、ベスト4は、大崎電気の埼玉県、トヨタ紡織の佐賀県、大同特殊鋼の愛知県、湧永製薬の広島県となりました。

ここでは、アジアサーキット、それと昨年来のリハーサル大会でハンドボールの認知度も高く、さらに今年正月の筋肉番付での宮崎選手の活躍もあり、試合後選手にサインを求めるファンが多く出ました。特に宮崎選手などは多くのファンに囲まれサインを求められていました。

実行委員会では、これらの混雑の解消と、観客の皆様の混乱を避けるため、試合終了後特別にサインコーナー（写真）の設置というご配慮をいただきました。試合終了後には、チームのご協力をいただきサイン会を実施しました。サインコ



ーナーには、子供たちから、ボランティアの方々も集まり、色紙、サイン帳、帽子やウインドブレーカーなどさまざまなものにサインをしてもらい、一緒に写真を撮るなど長時間にわたって続きました。特に宮崎選手の人気は高く、長蛇の列となっていました。

戦評

【成年男子】

▼3位決定戦

愛知 36（13－17、23－15）32 佐賀


写真提供：スポーツイベント社

［戦評］最初は一進一退の攻防であった。佐賀は堅いディフェンスからの速攻が決まり、徐々に点差を広げていく。愛知も反撃するが、佐賀のロングシュート、速攻が決まり、4点差で前半を折り返す。後半、佐賀は4－2ディフェンスに変えて防御するが、愛知は3点を連取、追い上げる。4分過ぎには佐賀9番・鶴田の退場で愛知が一気に追いつくかと思われたが、逆に速攻ミスで点差を広げられた。しかし、愛知は4番・末松のカットインからのシュートで追いつき、続けて2番・松林のポストシュートでこの試合初めてリードを奪った。その後も白熱したゲーム展開となったが、愛知GK・高木が好セーブを見せ、攻撃陣もそれに応える速攻を見せて得点を重ね、リードを広げていった。佐賀も最後まで粘りを見せたが、愛知が4点差で勝利を飾り3位となった。

▼決勝戦

埼玉 33（16－14、17－18）32 広島

［戦評］開始20秒、広島11番・東のジャンプシュートで先制する。埼玉も7番・永島のポストシュートで同点として、その後、一進一退のゲーム展開となる。15分過ぎ、埼玉は9番・猪妻のサイドシュートを皮切りに宮﨑の速攻などで一挙に5点を連取、13－8とリードした。広島も26分にはキーパー・坪根の好セーブから速攻につなげ、同点に追いつく。しかし埼玉は残り1分から2番・豊田が2点をあげて16－14と2点をリードして前半を終える。後半も両チーム互いに得点を重ね、9分まで21－20と埼玉の1点リードで進む。10分過ぎ、ここで決められれば同点になるというピンチで埼玉GK・浦和が好セーブを見せる。そして逆に連続3得点、一気に流れは埼玉ペースとなる。追いすがる広島も小藪、山口、下山を中心に得点をあげるがなかなか点差は縮まらない。残り1分、広島は相手ミスから速攻を決め1点差となる。なおも残り5秒でフリースローのチャンス。ここで決めれば延長戦というところまで詰め寄ったが、最後は1点差を守りきった埼玉が優勝を飾った。





【成年女子】

▼3位決定戦

熊本 33（16－8、17－8）16 岡山



［戦評］立ち上がり、両チームともスローペースで展開し、10が経過。熊本はロングシュート、サイドシュートなどで連続6点をあげリード。一方、岡山は攻撃にリズムがつかめず、ようやく11分にサイドシュートで1点をあげた。熊本は堅い守りでその後も速攻などで得点を加え、前半を16－8で終了。後半も熊本はディフェンスラインを上げ、GK・勝田を中心に堅い守りから速攻などで得点。また、セットプレーでもサイド、ポスト、カットインと全員で得点を加え、一方的なゲームになった。岡山は連戦の疲れからか攻撃にリズムがつかめず敗れた。

▼決勝戦

鹿児島 28（15－9、13－17）26 石川

［戦評］日本リーグ強豪チームの決勝戦、先手を取ったのは石川10番・野路のミドル。その後、両チームゴールキーパーの好守もあり、なかなか加点できずに10分が経過。その後も一進一退であったが、25分を過ぎてから鹿児島が速攻、ポスト、ミドルで連続得点をあげ、ペースを握





って前半を終えた。後半、石川が速攻、サイドで追い上げ、10分には3点差とするが、鹿児島は5番・田中の連続得点で加点した。石川はポストのボールを集めて得点し、20分には2点差まで追い上げ、会場はヒートアップした。結局最後は鹿児島が2点のリードを守りきって優勝を飾ったが、最後まで目を離せない激しい攻防の決勝戦となった。

【少年男子】

▼3位決定戦

京　都　40（20－13、20－11）24　岐　阜

［戦評］前半立ち上がり、京都9番・杉本のまわりこみシュートから動き始めた試合は、終始、京都が優位に試合を進める展開。特に京都は7番・小笠原のポストプレーは確実であり、攻撃の核となった。一方岐阜は、ミドルシュートなどで追い上げを図るが、バーに阻まれたりしてなかなか得点できず、徐々にリードを広げられ、20対13と京都の7点リードで前半を終了。後半に入っても京都は攻撃の手を緩めず、ポストを気にするディフェンスを横目に9番・杉本が立ち上がりから連続得点をあげるなど得点を重ねた。京都のディフェンスを攻めあぐねていた岐阜も10番・宮崎の目の覚めるようなミドルシュートなどで応戦するが、40対24で京都が勝利を飾った。

▼決勝戦

神奈川　33（14－13、19－17）30　兵　庫



写真提供：スポーツイベント社

［戦評］開始4分、兵庫7番・碓氷のスカイプレーから連続得点するが、神奈川も4連続得点。その後、キーパーの好守と8番・仁平の連続得点で神奈川がリードを奪う。さらに17分、兵庫3番・西脇の退場で神奈川優位の状態が続くが、兵庫4番・馬場のポストプレーなどがあり一進一退の展開。兵庫はシュートを打つが神奈川のディフェンスの高さにリードを奪うに至らず、神奈川の1点リードで前半を終了。後半開始20秒、兵庫6番・香山のサイドシュートで同点となるが、その香山の退場で神奈川がリズムをつくり、4連続得点をあげる。その後もキーパーの好守、パスカットなどで神奈川が加点するが兵庫も懸命に追い上げ20分過ぎには同点に追いつく。兵庫キーパー・北原の好守、全員攻撃、地元の大声援で緊迫した試合展開となるが、最後は神奈川が3点差で逃げ切った。特に神奈川8番・仁平の活躍が目立った。

【少年女子】

▼3位決定戦

兵　庫　18（14－4、4－10）14　宮　崎

［戦評］兵庫が6番・上村の速攻で先取点をあげ、優位に展開し、前半20分には9－3とリードを奪う。さらに兵庫はキーパーの好守などでリズムに乗った攻撃を展開、大きく点差を広げる。前半は14－4と10点の差をつけて終了。後半立ち上がり、両チームともにリズムが重く得点が動かない。兵庫・岡田のシュートで動き出すが、宮崎がその後5点を連取してようやく流れをつかむ。10－15と宮崎が追い上げたところで兵庫がタイムアウト。そこから兵庫も立て直し一進一退の展開となり、兵庫が前半の大差に助けられ18－14と4点差で逃げ切った。

▼決勝戦

富　山　28（19－9、9－11）20　京　都

［戦評］富山・作内のミドルシュートで先制するが、京都も采野の速攻で1－1。富山GK・石田の好セーブもあって富山優位で進む。5分には4－1とリードを奪う。京都はこれまでの試合で見せた華麗なパスワークが分断され、シュートも富山GK石田に止められる苦しい展開。前半終了時には19－9と大差がついた。後半早々、京都は堅いディフェンスから速攻が出てリズムをつかみかけた。しかし富山も着々と加点、なかなか点差は縮まらない。17分、富山に退場者が出たが、京都は点差を詰めきれず、結局前半の貯金を守った富山が28－20で頂点に立った。



写真提供：スポーツイベント社

第10回アジア男子ジュニアハンドボール選手権
兼07世界ジュニア選手権アジア予選／兼第11回ヒロシマ国際ハンドボール大会

日本5位に終わり 世界選手権出場ならず

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一


写真提供：スポーツイベント社

1994年に広島市で開催された第12回アジア競技大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会も、今年で11回目を迎えました。今年は8月21日（月）の審判会議、代表者会議を行ない、翌日から2日の休息日を挟んで31日（木）までの11日間、アジアより11の国、地域が参加した大規模な大会となりました。会場はアジア大会のハンドボール会場であった東区スポーツセンターで開催しました。

広島で毎年開催される国際大会ですが、広島の関係者にとってこの大会を日本ナショナルチームの強化に役立ててもらうことが最大の望みです。北京オリンピックの次を目指す日本U—21には是非とも地元開催の優位に立って世界選手権出場の権利を取ってほしかった大会です。また来年行なわれる豊田市での北京オリンピックアジア予選に弾みをつけてくれることを期待していました。そうした意味合いからも広島では充分とはいえないまでも出来るだけの準備をもって迎えた大会のつもりでした。アジア連盟からの連絡では開催は当初9月中旬ということで、学校も新学期は始まっているし運営役員の確保が大変だと思っていたところ、8月開催となりまずは一安心といったところでした。

この大会はアジアより21歳以下の若者達が集まっての大会です。それなら運営も広島の同年齢の諸君にゆだねてみようということにし、選手係、通訳、会場係等を広島県内の大学生にお願いしました。大学チームには中四国リーグの日程を変更してもらい、又一番練習に励まなくてはならない時期を大会手伝いで満足に練習が出来なかったことなどで迷惑を掛けたと思います。

例によって参加チームの最終決定までには紆余曲折がありました。6月のエントリーには13チームの参加申込があり予選は4グループに分けて一次リーグを行なう予定でしたが、まずアラブ首長国連邦が抜け、大会直前まさにプログラムなど印刷寸前になって、オマーンが参加辞退を連絡してきました。

そんなこんなで大会直前まで日程が確定せず慌てましたが、これも後から考えるとアジア連盟がらみの大会では当たり前の事だったなと苦笑しています。

大会は前述の通り11の国、地域から役員選手236名、レフェリー8ペア16名、AHFテクニカルコミッティ12名の総勢264名とIHF役員1人の参加でした。

大会では小さな問題点は多々ありましたがおおむね順調に推移し、無事11日間の日程を終えて9月3日には全チーム広島を後にしました。

今大会の最終成績（詳細は戦評、スコアールームを参照）、および表彰選手は次の通りです。

【最終成績】

優勝	クウェート	7位	カタール
2位	韓　国	8位	インド
3位	サウジアラビア	9位	チャイニーズ・タイペイ
4位	中　国	10位	マカオ
5位	**日　本**	11位	香　港
6位	イラン		

【大会ベストセブン】

GK	ムハンマド・アルサーレム（サウジアラビア）
CP	サレハ・アルジャイマズ（クウェート）
	野村　喜亮（日本）
	ティアン・ジァンシア（中国）
	キム・ナンフン（韓国）
	エハサン・ネジャド・イマン（イラン）
	ナサール・ジャファ（クウェート）
得点王：	エステキ・アルラハラム（イラン）52点

最後にこの大会を開催するにあたり共催の中国新聞社、特別協賛の㈱モルテン、㈱アシックス、オフィシャルドリンク提供のキリンビバレッジ㈱、コカ・コーラウエストジャパン㈱をはじめ広告協賛をいただいた関係各位および報道各社に対してお礼を申し上げます。

第10回アジア男子ジュニア選手権を終えて

全日本男子U－21ヘッドコーチ　滝川　一徳

たくさんの方々の期待を背に広島で開催されたアジア男子ジュニア選手権を終えて2ヶ月がたった今、もう一度大会を振り返り、ヘッドコーチとしての思いを述べさせて頂きます。

はじめに

まずはじめに、22年ぶりの世界ジュニア選手権出場を目標に、黄金世代と言われたタレント選手とともに日本球界の大きな期待をひしひしと感じながら4月から全力で戦ってまいりました。しかし結果は5位。期待にこたえることができず大変申し訳なく思っております。この場をおかりしてこのチームを陰に陽に支えて頂いた関係者の方々に深くお詫び申し上げたいと思います。

大会に向けての準備

4月にヘッドコーチを任され、以来2回の合宿とスウェーデン・デンマーク遠征という強化を進めてまいりました。6月上旬の日本リーグサマーキャンプではナショナルチーム、U－23、日本リーグチームとたくさんの試合をさせて頂き、また日本のトップ層を肌で感じることで今までにない実りある強化ができました。また、スウェーデン・デンマーク遠征でエントリーした2つの大会で優勝することができ、スタッフ・選手のモチベーションはもちろん、ハンドボール関係者の期待は広島の大会に向けて益々高まっていたことと思われます。私自身も高校のチームを持つ1人としてインターハイ、国体ブロック予選と多忙を極めましたが、任されたからには22年分の思いをこの大会にぶつけようと必死で強化活動を行ってまいりました。

そして迎えた日体大での直前強化合宿。前全日本チーム監督の松井先生にも多くのアドバイスを頂き、また市原副会長には激励にまでお越し頂き、プレッシャーの中にも我々スタッフは大変心強い思いをしたものでした。しかし、一つ残念なことがありました。選手には大学の夏休みがあり（各所属チームで日数は異なりましたが）、その後各チームでの練習をこなして合宿に集合しましたが、集合日にすでに故障を抱える選手が数名おり、聞けば夏休み期間中ほとんどトレーニングを実施していなかったということでした。すべてそれらも私自身のチーム管理の甘さではありますが、あまりにもの自覚のなさに悔しい思いを致しました。

大会の成果と反省

上記で述べました通り、故障者を抱えての現地入り。直前合宿の集合時に「これからおこりうることはすべてプラスに考えよう」と選手に伝えたものの内心「ここにきて…」という不安もありました。

ここで、今までの経験と将来のナショナル選手育成のため私が進めてきたジュニアナショナルチーム強化の柱を述べさせて頂きます。

{チーム強化方針}
- 個人として…DFの中心を任せることのできる走れるBP・PPの育成。
- 組織として…地元開催の大会に向け支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、100％全力でプレーし愛されるチームになる。

{戦略戦術}
- 大型でスピードのある選手をベースにOF・DFとも機動力を活かした攻撃型ハンドボールの構築を目指す。

DFシステム…6－0（攻撃型）→5－1（変則）をベースに中央を固めるDFの徹底

OFシステム…きっかけを徹底しスペースを利用した連続攻撃の展開

FBパターン…クロスを基本スタイルに緩急をいかしたFBの展開（3.5次速攻まで）

REパターン…3つのパターンを基本ベースに効果的なクイックスタートの確立

{基礎体力}
- 上肢のパワーアップ…幹を含めたバランスのとれた筋力アップ（ベンチプレスチーム平均体重割1.25以上）
- 下肢のパワーアップ…徹底した走り込みによるスタミナの育成（試合の大切な場面で機動力を持ってフルに動けるスタミナ）

{メンタル}
- 対韓国を最大のターゲットにイラン・クウェート対策として初戦からセミファイナルまでタフに戦えるメンタル面でのスタミナ強化（初戦と勝負のかかった試合への対策）
- プレッシャーのかかる地元開催の大会でそれらをエネルギーに変えられる精神的タフさと、栄養摂取・休養の知識を準備し日頃から実践する。

{チーム理念}
- 3つのC

Concentration（集中力）

Control（冷静）

Confidence（自信）

プラス4つめのC　Communication（コミュニケーション）

- 「今を重要視する」「今するべきことをする」「今に集中する」（時間軸を今におく）

これらを念頭に強化し大会に臨みましたが、結果は5位。初戦のマカオ戦は無難に乗り切ったものの、元来この世代では力不足で白星の想定内にあった中国の急成長に屈し、イン

ド戦に勝利した時点で韓国に3点差以上の勝利を収めない限り準決勝に進出できない状況となってしまいました。この間も主力選手が高熱でダウンするなどこのチームを任されて以来の最悪のコンディションの中での大会でありました。欧州の大会で勝ち続けてきたチーム状態と比べると、闘争心はじめ日の丸を胸に戦う集団としての機能が十分でなかったと言えます。すべての責任は私にあるものの、これが今の学生の意識の低さなのかと少なからず考えてしまいました。また、韓国戦のみ会場はほぼ満員でしたが、その他の試合は「本当にこれがホームでの開催なのか？」と目を疑うくらいの惨状でした。必死で食らいつくものの中国戦・韓国戦では大切な時間帯にイージーなミスを連発し、リードされ結局は焦りとともに自分達の勝ち方、戦い方を忘れ、一番心配していた個人技頼りのゲームとなってしまったことが最大の敗因と言えると思います。しかし、最後のイラン戦では自分達の勝ち方を思い出し、選手それぞれが2月のフランス遠征以来意識してきたトレーニングの成果を出し、白星で大会を終えることができました。欧州の対大型チームとの経験がなければイラン戦の勝利は得ることができなかったと確信しています。

これからに向けて

「黄金世代」と言われ続け勝つことを宿命として今まで選手生活を送ってきた選手にとって今回の敗戦は苦い経験となってしまいました。私自身も自宅で休む時間もほとんどなく自分のチームの大会や勤務先での校務、そしてこのチームでの合宿・遠征・大会と駆け回ってここまでやってきた自負もありました。それでもこの年代のアジアで勝つには相当のエネルギーが必要であると他国の強化を見ると感じざるを得ません。22年ぶりの世界進出を託されておきながら大変心苦しい敗戦の弁ではありますが、仮に中国に勝っていたとしても…たとえ選手の将来性は日本の方が上であることは確信できたとしても…現時点で韓国とクウェートに勝つことは厳しかったと考えます。2カ国しか世界に出て行けない、しかもクウェートは中東問題を差し引いても実力をつけており、韓国の一本化された強化体制や中国の台頭を考えますと、国内でのタレント選手輩出に期待をしてしまうジュニア育成の根本を今一度考え直さない限り、今後この世代での世界進出はますます厳しくなっていくと思われます。NTSの柱は「見つける・育てる・活かす」であります。

この世代に象徴されますようにタレント選手を発掘する「見つける」は球界の取り組みで満足に近いものはありますが、「育て、活かす」までには至っていないのが現状であると思います。ここから先に進むには、我々ジュニア育成に携わる指導者が、世界に通用するための選手育成を念頭に置いた指導を常日頃から実践しなければ「いい選手」は見つけられても「強い選手」を輩出することができないのではないでしょうか。今回の敗戦の責任は私が重く受け止めております。しかしこのまま日本がこの位置から脱却するためには今一度考え直す時期が来ていると思います。どうかこの苦い思いが大会後に私が選手と約束した「あの広島での負けがあったから今俺たちはここにたっているんだ」とオリンピックのコートに立ち、さらには表彰台を目指して頑張る近い将来の代表選手に届くことを祈ってやみません。

最後になりますがこのチームを支えて頂いた多くの方々、広島での大会運営にご尽力頂いた皆様、大会中何度も「将来のある選手だからしっかり育てていこう」と励まして下さった市原副会長や蒲生団長、そして私とチームを支えて下さった日体大松井監督、湧永製薬山口選手、岩本・阿部両コーチ、尾中・関沢両トレーナー、有田ドクター、大会中寝ずに相手の分析をして下さった小笠原さんはじめ情報スタッフの方々にあらためて感謝の意を表します。また素晴らしい選手達との出会いに感謝し、彼らが近い将来、必ずやこの敗戦を糧に世界で活躍してくれることを祈って大会の総括とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

大会雑感

世界ジュニア選手権のアジア予選を兼ねた今大会はクウェートの4連勝で終わりましたが、大会の裏の出来事を記します。

広島アジア大会の折、一館一国運動としてカタールを応援して以来交流をしている広島市安佐北区安佐公民館カタール会（久保田清信会長）の方たち38人が8月26日のカタール対チャイニーズタイペイ戦の応援のため会場に駆けつけ盛んな声援を送りました。試合は応援のかいあって35対24でカタールの圧勝。試合後、カタール会のメンバーは選手団と地域の子供達が作った応援横断幕の前で記念写真を撮ったり交流しました。この模様は当日NHKのニュースで流されました。

今大会はアジア連盟の主催ゲームであり、AHFから大勢の役員が来て大会運営にいろいろ口を挟むわけですが、大会要項にある根本的なメンバーの提出、写真の提供など相変わらずのルーズさは何とかならないものでしょうか。特にAHFお膝もとのクウェートやサウジアラビアなどは何度催促してもなしのつぶて。日本協会の平賀さんには迷惑をおかけしました。

大会最終日の決勝戦にはクウェートの応援にAHF会長のシェイク・アーメッド・アル-ファハド・アル-サバーの弟殿下タラル・ファハド・アル-サバー氏が急遽、会場に来られたのには驚きました。当日朝クウェートの日本大使館からは第二大使が応援に行くのでよろしくと連絡がありましたが、いざ会場で出迎えてみると殿下他4人で来られアタフタしたこともほのぼのとした出来事でした。クウェートが優勝するやクウェートの役員を始めメンバーが殿下を取り囲み抱き合うなど大騒動でした。

いろいろな事がありましたが、国際交流のお役に立つことが少しでも出来たのではないかと思っています。



左から3番目がアル-サバー殿下

【試合戦評】（日本戦のみ）

▼予選リーグ

日　本　36（17－4、19－8）12　マカオ

［戦評］予選リーグ初戦、日本は運動量の多い6－0DFでプレッシャーをかけ、染谷、松本の速攻、野村のロング、カットインで8分までに7連取し、ゲームの流れをつかむ。その後も安定したDFからの速攻で、前半17－4としゲームを決めた。後半は、東長濱のアシストやステップ、カットインで加点。守っては、甲斐、内田の両GKの好セーブもあり、さらに点差をつけ、36－12の快勝で初戦を勝利を飾った。

中　国　33（20－15、13－15）30　日　本

［戦評］立ち上がりは互角だったが、中国の長身を活かしたミドルシュートとポストプレーで得点を重ね、前半15分で12対5と中国のリズムでゲームが進んだ。その後日本もリズムを取り戻し、速攻やセットプレイから17番棚原のロングシュートなどで得点し、22分には14対11と挽回した。23分以降は中国18番、14番のミドルシュート、日本は15番東長濱と17番棚原のミドルシュートと双方打ち合い、20対15中国リードで前半を終了した。後半に入っても日本はリズムが取り戻せないままゲームが進行、得点は重ねるものの中国も力強いロングシュート、カットイン、ミスからの速攻と攻撃の手を緩めない、17分過ぎには30対20と10点差をつけられた。これで日本も万事休すかと思われたが、ここから日本の猛烈な追い上げが始まる。セットプレーから棚原のミドル、染谷のサイドシュート、攻めあぐねる中国から速攻をもぎ取り、なんと8連取。24分過ぎに2点差まで詰め寄った。しかし、中国の17番のサイドシュートで加点、日本も棚原、東長濱らのシュートで得点するも3点差で勝利を逃がした。

日　本　43（21－10、22－6）16　インド

［戦評］中国戦に敗れ後がない日本、立ち上がりから気迫あるディフェンスでインドを圧倒。10分過ぎまでに7－3と主導権を握った。攻めては、セットプレーから8番野村が打ち込み、高さのあるディフェンスで相手のポストプレーとロングシュートを封じ込め、2番染谷の速攻などで着々と加点した。25分までに18－7と大量リードを奪う。インドも4番、5番が果敢にシュートを狙うも、単発に終わり得点差は広がる一方であった。後半に入っても、日本は攻撃の手を緩めず、本日10得点を挙げた8番野村、サイド10番松本（7得点）の両サウスポーの活躍で攻守にわたりインドを圧倒した。インドも必死に攻めるが、日本の高いディフェンスを崩すことができず、パスカットやミスからの速攻で失点を重ねた。日本は攻撃の手を緩めることなく43点という大量得点をあげて勝利を飾った。

韓　国　33（16－14、17－15）29　日　本

［戦評］決勝トーナメント進出をかけた大一番、応援団の熱気にも押され、日本チームは出だしから好調、5番石川の積極的な仕掛けから7mスローを4番大田が着実に決めるなど6分過ぎまで5－2とリード。中盤、韓国の高い3－3ディフェンスが機能し始め、ディフェンスからの速攻などで、13分過ぎから5連取で、一気に8－9と逆転を許す。しかし、日本も粘り強く対応、GK甲斐の好セーブ、キャプテン染谷の獅子奮迅の活躍で、韓国についていき2点差で折り返した。後半出だしから韓国の攻撃に鋭さが増し、日本の連続退場を機に、徐々に差を広げていく。5分過ぎには3点差、10分過ぎには6点差と差は広がる一方となった。韓国はサイド7番、ポスト8番が得点チャンスに決めるが、日本は要所でポスト、サイドシュートを阻まれる苦しい展開に。日本は後半から出場のエース棚原らの活躍で応戦するが、最後まで韓国ディフェンスを崩すことができず、4点及ばすタイムアップとなった。

※日本は、予選リーグA組3位となり、決勝トーナメント進出できませんでした。

▼5－6位決定戦

日　本　32（17－17、15－10）27　イラン

［戦評］今大会初めて中東勢との対決。立ち上がりは、イランの高く、早い動きに対応することができず、9番のカットイン、ロングシュートなどで得点を重ねられ、10分で9対5と点差をつけられた。しかし日本も15分過ぎから、足を使った攻撃的なディフェンスでイランのシュートミス、パスミスを誘い速攻、ポストシュートで追いすがる。20分過ぎからは日本がリードする形で、一進一退の様相、前半を17対17で同点で折り返した。後半に入り、立ち上がりの相手2分間退場を活かすことができず、イランに先行を許すが、ディフェンスを立て直し、速攻などで盛り返す。エース棚原もようやくエンジンがかかり、次々とステップシュートを決めていった。中盤以降もイランのミスに乗じて着々と加点。20分過ぎには3点差、26分に30－26と4点差としたところで、日本GK16番内田がイランのエース9番の7mTを阻止し、勝利を決定づけた。日本は全員ハンドで中東勢から貴重な1勝をもぎ取った。

2006年 U－16女子日韓親善ハンドボール交流大会



ヘッドコーチ　古橋 幹夫

1．期間・場所

・派　　遣：2006年9月13日～9月18日
　　　　　韓国・議政府市にて
・受　　入：2006年9月23日～9月27日
　　　　　日本・小松市にて

2．交流のコンセプト（強化練習会ミィーティングにて）

・今回は訪韓が先、勝つことだけを考えたら一線のディフェンス、先を考えたら3－2－1や5－1のディフェンスが必須条件となる。先を視野に入れて行う。
・170㎝のサイドプレーヤーを目指せ。
・五輪出場のためには、韓国、中国を倒さなければならない。相手はでかい。
・フェイント力、走力が大切になってくる。170㎝のサイドプレーヤーとして今後全日本を目指せ。U－18の第2回大会アジア予選会対象の年代である。
・韓国はディフェンスが高い方がやりやすい。1対1が広がるから。
・プライドを持て。「他の選手よりも練習します。」「勉強する年代であるということ。」
・自ら“教えてください。”という意識を高めてほしい。
・自分の要望も出す。一人一人が責任を持つ。
・フリーアップを採用する。自ら考えて判断すること。行動できる習慣化。このような選手を全日本が求めている選手像である。
・ミスを怖がるとディフェンスは前に出られなくなる。出るという積極性を。前後に動く事。
・けがをしないで、親善試合を勝ちにいくこと。ただし、必ず全員にチャンスを与える。

3．トレーニング内容及び試合結果

①トレーニング　VTR有り
・フットワーク
・各種パス－2、3人によるもの
・シュート－カットインや切り返しを含めて
・ドリブルカット
・1－1、2－2、3－3、4－4、6－6など
・コンビプレーの確認
・ディフェンス（3－2－1）の確認と修正

②トレーニングマッチ
■9／14　25分×2
　日本　10－12　韓国
　日本　7－12　韓国
■9／16　25分×2
　日本　12－14　韓国
　日本　13－15　韓国
■9／24　25分×2
　日本　12－14　韓国
　日本　16－7　韓国
■9／25　25分×2
　日本　6－9　韓国
　日本　11－10　韓国

③親善試合
■9／17　25分ハーフ
　日本　22（11-13、11-13）26　韓国
■9／26　25分ハーフ
　日本　14（7-6、7-9）15　韓国

4．交流を終えて

10回目となる日韓親善ハンドボール交流会は、9月13日～18日、韓国議政府市（ウィジョンブ市）への訪韓からスタートしました。実質双方とも4日間の交流日程ですが、個人の育成と国際交流両面に重きを置き、トレーニング・練習マッチを実施しました。

昨年度に続き本年度の日本チームは、形態・身体能力共に将来性のある選手が揃い、和やかな雰囲気の中にも緊張





感があり、日を増す毎にチームらしさが見えるようになっていきました。今回のテーマとしては、将来外国に出向き諸外国のチームと対戦するということを大前提として、7月に実施した強化合宿での３－２－１ディフェンスシフトを採用し、大型チームに対する実践として、それぞれの持ち味を存分に生かしながら発揮できるよう指導しました。各選手の持ち合わせている能力は高く、短い交流期間にもかかわらず徐々に機能を発揮し、1試合目よりも2試合目、そして親善試合の前日では選手全員が“韓国に勝ちたい”“ディフェンスっておもしろい”という声が聞こえ、頼もしささえ感じさせてくれました。

韓国での親善試合では、日本の３－２－１ディフェンスを破るため、韓国が必死に1対1をしかけてきたりシステムを変化させたりと、高い位置で守るディフェンスが大いに機能を発揮してきていることを実感できました。課題としては、ここぞという時のイージーミス（パス・ノーマークシュート）をいかに減らせるか、ルーズボール対する体の使い方など精神面の強化を合わせながら指導を継続していくことかと思われます。

訪韓に関しては、はじめて議政府市を拠点として実施されましたが､議政府市のハンドボール協会長さんをはじめ、多くのスタッフ人が親身に接していただき、日本チームの面倒を見てくれました。誠に、ありがとうございました。前期の訪韓、故障者を出すことなく帰国でき、それぞれの関係者に感謝申し上げ、意義のある海外遠征であったことを報告申し上げます。

後半の受け入れは、9月22日～27日、石川県小松市にて実施。好天にも恵まれ両国ともコンディションをくずすことなく日程を消化しました。小松市にて日本リーグの試合があり、その後に練習やトレーニングマッチを行うなど、選手らのモチベーションも高く、地元の声援も受けながら環境にも恵まれていました。

さて、そんな中、両国共にディフェンスやオフェンスのコンビネーション・確認修正を主体に展開しました。日本は３－２－１ディフェンスの確立と修正、韓国はそのディフェンスを破るためのオフェンスに力を注ぎ、それぞれが親善試合を意識しての取り組みとなり、選手たちにとっても大変いい経験の場となっていました。親善試合では両国共にディフェンス力があり一進一退のゲーム展開の中、わずかの差で勝負が決定していたかと思われます。今年の日本チームの特徴は、表に出なくとも大変よく思慮した上でのプレーの修正が早く、ディフェンスの修正なども的確に判断して確立していました。それぞれの身体能力の高さを実感した場面でもあります。海外チームと行うときでの日本の高い位置でのディフェンスをテーマに進めてきましたので、その点においては成功でした。今後の課題としては、シュートを含めたオフェンス力の強化にあり、今回はあまり時間がとれなかったのも事実でした。ただし、決して引けはとらず、むしろ総合的には韓国チームよりも接触に強く、ミドルシュート決定率は日本が勝っていました。

各選手ならびにチームスタッフの所属長様と顧問の先生、該当する教育委員会の皆様や地元石川県内の関係者にはご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。日本のハンドボールの将来に明るい意義のある事業であったことを申し上げ、日韓交流U－16女子の活動報告に代えさせていただきます。



参加選手の感想

平川 愛里（大分鶴崎高等学校）

今回の石川での韓国との交流試合は、とても悔しい結果となりました。

1試合目は雰囲気も良く、ミスもみんなでカバーすることができ、初めて韓国に勝つことができました。2試合目・3試合目では1点の大切さを強く感じました。

接戦のときのオフェンスやノーマークシュート・時間の使い方など、まだまだ考えてプレーするべき点がたくさんあります。1点差で負けているときに、ラストの攻撃をミスで終わらせてしまって、とても悔しかったです。

今回の韓国戦で3・2・1ディフェンスがとてもよく機能したと思います。あのディフェンスは、1対1の強さだけではなく、みんなでカバーしあって成功します。この感覚を忘れずに、チームにもどっても学んだことをしっかりやっていきたいです。

このメンバーでプレーすることができて、とても楽しかったし本当に良かったです。

原　希美（宮崎学園高等学校）

今回の日韓交流は、3試合中1試合だけ勝つことができました。試合の中では、いろいろなことを試すことができました。

一番、韓国に通用したのは、DFの3・2・1だと思います。大きいチームと小さいチームに分かれて試合には出場したけど、どっちのチームも練習するにつれてどんどん守れたと思います。私はサイドDFをしたけど、何回も韓国に1対1を抜かれてしまいました。もっと前に詰めていれば守れていたので、とても悔しかったです。また、OFでもいろいろなフェイントやシュートを試すことができました。でもキャッチミスやパスミス、キープミスが多くて、何点も相手に点をあげてしまう場面が多かったです。





仲間がロングを打つときのパスや速攻のときのアシストパスは、とても大切だなあと思いました。また、シュート1本の大切さも学ぶことができました。いままでは、「1本のシュートぐらい!!　いいや」って思ったりすることもあったけど、この日韓交流を通して1本のシュートが勝負を左右するとても大切なものだということに気づかされました。

もうこのチームで一緒にプレーすることはないけど、いままで教えていただいたことをチームに持って帰って頑張りたいと思います。自分の目標はU－16で終わりじゃないので、上を目指して頑張ります。

第１回 女子ユース 世界選手権 に参加して

大会レフェリー
池渕 智一
檜﨑　潔



今年度は、５月下旬に中国で開催されたAHFレフェリーコース、６月下旬にスペインで開催されたIHF主催第１回GRTPコースと参加して、それだけでも大変貴重な経験をさせて頂きました。そんな中、７月中旬に第１回女子ユース世界選手権（inカナダ）のノミネートの知らせが届きました。カザフスタンのレフェリーがキャンセルしたためであるとのことでした。そして今回初めて、IHF主催の世界選手権に参加する機会を得ることができ、大変感謝致しております。これも、今までご指導いただいた日本協会審判部長・島田房二氏や後藤登氏をはじめとした協会審判部の方々、そして諸先輩方のおかげと、ここに改めて感謝申し上げます。また、参加につきましては、日本協会事務局の平賀氏には、IHFとの連絡の細部にわたり、ご配慮頂きました。重ねて感謝申し上げます。

さて、今大会合計５試合担当させていただきました。そのなかには、地元カナダのオープニングゲームだったり、日本人ヘッドコーチ岡本氏率いるタイチームのゲームだったり、予選リーグにおいて決勝と同一カードとなったデンマーク対韓国のゲームだったりと、どれも思い出深いゲームとなりました。また、何と言っても、IHFの資格を取得して、約１ヶ月で世界選手権への参加のチャンスを頂けただけでも、驚きでありましたが、準決勝を割り当てて頂いたことは身に余る思いがしました。発表の際に、**「おそらくオリンピック・世界選手権を含めて、日本人で初めて、準決勝を担当するのではないか。」**と言われました。また、デンマーク対韓国のゲームにおいては、発表の時から、「IHFがとても重要と考えているゲームである。」と言われたり、「君たちの将来がかかっている。」などと言われたりして、とても緊張し、そのプレッシャーは想像以上のものでした。しかし、無事に任務を終えて、「おめでとう！いい試合だったよ。」といろんな人から握手を求められたとき、よかったと心から喜びがわきあがってきました。ミーティングでは、プラウゼ氏からお褒めのコメントを頂いたとき、仲間から大きな拍手をもらいました。この時には、涙が出るほど嬉しかったです。

私たちは、英会話が得意ではありません。言っていることは何とか分かっても、自分の思ったことをきちんと伝えることができず、もどかしい思いをしています。週に２回、英会話スクールに通い、勉強をしています。また、今年度、こんなに短期間の中で、AHFレフェリーコースから第１回GRTPコース、そして第１回女子ユース世界選手権大会と経験をさせて頂きましたが、英会話に限らず、レフェリングにおいてもまだまだ研鑽を積まなければならないと思っております。今後とも、より一層のご指導を賜りますようお願い申し上げ、ご報告とさせて頂きます。





池渕智一さん（写真左）と檜﨑 潔さん（写真右）

～他人事ではない？～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

ある朝、新聞を見て「エッ」と目を疑った。そこに踊っていた見出しはこうだった。

「貧乏日本女子ホッケー　またスポンサーなし」

アテネ五輪出場で支援の輪が広がり、ファーストフードがスポンサーになったが、それが打ち切られるというものだった。

確かにホッケー協会の台所事情はきびしいようだ。アテネ五輪の前、日本協会の役員の一人は「スポンサーがついてよかった」と、ひとまずは安堵していたが、またも資金不足に直面しかねない状況に追い込まれたようだ。

今回ドーハ・アジア大会に出場したメンバーは、史上最強とまで言われたが、やはり「マイナー競技」という悲しい運命なのだろうか。海外遠征は自己負担を強いられ、航空券も格安チケットを使うなどやりくりしながら強化を図っているという。

一方、サッカーは広告代理店と8年間で240億円の長期契約を結ぶことになったという。同じスポーツでも、こんなにも違うのだ。やはり人気がない競技の悲しさとでもいうべきなのだろうか。

五輪球技団体はそれぞれスポンサー契約をしているが、もしホッケーに新しいスポンサーがつかない場合は、五輪球技では唯一の団体になるらしい。

しかし、ここで「大変だなあ」と他人事のように思ったとしたら、それこそ「大変」なことになりかねない。五輪に出場したとしても、こうしたきびしい状況があることを肝に銘じておくべきである。

先日、あるスポーツメーカーの人と話をした時のことである。「これまでは契約すれば、すべてでＯＫだった。しかし、現在の契約は総額を決めた中で、目標に届かない場合はいくらかマイナスになるような契約になっているケースが多い」と言うことだった。それだけカネを出す側もシビアにならざるを得ない状況なのだろう。

こうしたことを考えた場合、資金が豊富な団体と、そうでない団体との格差はいっそう広がりを見せるのではなかろうか。実力を示すだけでもだめ。人気があることが重要なポイントの一つであろう。ましてや五輪に出場しない団体は目を向けてくれないことも考えられる。スポンサーは慈善団体ではない。それに見合うものがなければ当然ながらそっぽを向く。何を言いたいか。賢い人たちに分からないことはないはずだ。

NTS2006報告

NTSコーディネーター　田中　茂

各地でのブロックトレーニングも終了し、全ブロックよりセンタートレーニングへの参加選手が推薦され、最終選考を行い、センタートレーニング参加選手が決定いたしましたのでお知らせいたします。

なおセンタートレーニングの開催日・場所も決定いたしましたのでご連絡いたします。

中学生男女：1月5日・6日　　中部大学体育館
高校生男女：1月6日・7日・8日　　中部大学体育館

センタートレーニングへの推薦選手（H18）

高校男子

	都道府県名	選手名	学年	学校・チーム名
1	福　島	笠原　謙哉	3	聖光学院高校
2	静　岡	望月　崇寛	3	市立清水商業高校
3	群　馬	小賀野 龍也	3	富岡高校
4	沖　縄	今元　勇輝	2	那覇西高校
5	茨　城	小室　大地	3	藤代紫水高校
6	茨　城	信太　弘樹	2	藤代紫水高校
7	京　都	成田　幸平	2	府立洛北高校
8	長　崎	糟屋　周穂	1	瓊浦高校
9	神奈川	仁平　昌利	3	法政第二高校
10	大　分	久保　侑生	3	大分国際情報高校
11	秋　田	井上　元輝	2	湯沢高校
12	茨　城	坂　　洋明	3	藤代紫水高校
13	石　川	時村　浩幹	3	小松明峰高
14	三　重	田中　政徳	3	四日市工業高校
15	大　阪	植垣　貴志	2	大阪体育大学浪商高校
16	長　崎	内野　康平	1	瓊浦高校
17	神奈川	牧山　仁志	1	法政第二高校
18	愛　知	山口　佑樹	3	愛知高校
19	沖　縄	玉城　聖也	3	興南高校
20	沖　縄	東江　太樹	2	那覇西高校
21	沖　縄	上原　健治	3	興南高校
22	神奈川	光武　　純	3	法政第二高校
23	三　重	岩瀬　　遼	3	四日市工業高校
24	兵　庫	宮本　克哉	1	育英高校
25	沖　縄	砂川　慶成	3	興南高校
26	愛　知	金子　拓磨	2	岡崎城西高校
27	愛　知	多和田 裕介	3	岡崎城西高校
28	宮　崎	山下　和樹	3	小林工業高校
29	茨　城	木村　昌丈	1	藤代紫水高校
30	香　川	久保龍太郎	1	香川中央高校

中学男子

	都道府県名	選手名	学年	学校・チーム名
1	大　阪	瀬田　舜介	3	第十五中学校
2	山　梨	萩原　良太	3	塩山中学校
3	奈　良	前田　幸隆	2	生駒市立上中学校
4	秋　田	高橋　圭介	3	湯沢南中学校
5	三　重	矢田　純一	3	菰野中学校
6	和歌山	ｶﾗｷﾞﾆｱｽ ﾏｰｼｬﾙ謙太郎	3	西和中学校
7	鹿児島	赤塚　雄也	3	舞鶴中学校
8	岩　手	添田　勝衣	3	松園中学校
9	東　京	宅田　裕介	3	東久留米西中学校
10	茨　城	八木裕次郎	3	けやき台中学校
11	群　馬	田畑　柚汰	3	富岡南中学校
12	熊　本	松本　悠太	2	玉名中学校
13	神奈川	小沢　栄二	3	西中原中学校
14	愛　知	中島慎太郎	3	御幸山中学校
15	広　島	岡本　圭司	3	片山中学校
16	石　川	大倉　有勲	3	金大府中学校
17	熊　本	岩下　祐太	3	都呂々中学校
18	山　梨	廣瀬　卓哉	3	山梨南中学校
19	大　阪	子安　貴之	3	大淀中学校
20	香　川	稲毛　隆人	3	塩江中学校
21	茨　城	池邉　大貴	3	けやき台中学校
22	千　葉	麻生　一稀	3	若松中学校
23	沖　縄	山田　隼也	3	神森中学校
24	京　都	牧内　翔平	3	培良中学校
25	京　都	南　　直樹	3	培良中学校
26	沖　縄	大城　龍司	3	神森中学校
27	福　岡	井原　優介	3	粕谷中学校
28	沖　縄	上里　健太	3	神森中学校
29	沖　縄	又吉　裕喜	3	神森中学校
30	沖　縄	山里　盛隼		神森中学校

高校女子

	都道府県名	選手名	学年	学校・チーム名
1	大　阪	戎野満梨奈	2	四天王寺高校
2	千　葉	吉沢　佳奈	2	昭和学院高校
3	沖　縄	翁長和佳子	2	陽明高校
4	大　分	増田　寛那	2	大分鶴崎高校
5	香　川	塩田　沙代	3	高松商業高校
6	兵　庫	亟々　知佳	3	夙川学院高校
7	岩　手	町屋なつみ	3	不来方高校
8	福　岡	葉室　玲奈	3	筑紫女学園高校
9	宮　崎	炭床ともみ	2	宮崎学園高校
10	京　都	山上　麻美	3	洛北高校
11	群　馬	鳥飼　　翠	3	富岡東高校
12	神奈川	橋本　千里	2	高津高校
13	熊　本	佐藤友利恵	3	熊本国府高校
14	茨　城	小林　彩香	3	水海道二高校
15	熊　本	田中　千恵	3	松橋高校
16	沖　縄	高良　温子	2	那覇西高校
17	京　都	後藤千渡世	3	洛北高校
18	富　山	竹内美沙紀	3	高岡向陵高校
19	長　崎	鐘ヶ江　愛	3	佐世保商業高校
20	富　山	作内　杏那	3	高岡向陵高校
21	富　山	石野実加子	3	氷見高校
22	富　山	石田　　光	3	高岡向陵高校
23	石　川	山野由美子	3	小松市立高校
24	石　川	中西　朋代	2	小松市立高校
25	鹿児島	川俣ゆかり	1	蒲生高校
26	宮　崎	原　　希美	1	宮崎学園高校
27	京　都	乾　彩友美	1	洛北高校
28	大　分	平川　愛理	1	大分鶴崎高校
29	沖　縄	森　　鈴菜	1	那覇西高校
30	福　岡	松尾　祐依	1	福岡女子商業高校
31	熊　本	松木　　史	1	熊本国府高校
32	大　分	工藤　　咲	1	大分鶴崎高校

中学女子

	都道府県名	選手名	学年	学校・チーム名
1	香　川	柴崎　仁美	3	香川第一中学校
2	岩　手	安倍　千夏	3	松園中学校
3	岐　阜	網谷　涼子	3	日枝中学校
4	沖　縄	渡口　和代	3	港川中学校
5	石　川	松村あすか	3	寺井中学校
6	愛　知	脇田　春奈	3	古知野中学校
7	東　京	松村　杏里	3	東久留米西中学校
8	茨　城	皆葉　奈々	3	鬼怒中学校
9	神奈川	富山恵里香	3	上溝南中学校
10	兵　庫	金子　友美	3	浜の宮中学校
11	岡　山	角南　　涼	3	下津井中学校
12	東　京	笠木　美希	3	東久留米西中学校
13	岩　手	錦織　　新	3	松園中学校
14	東　京	角屋　里帆	3	東久留米西中学校
15	埼　玉	川村　杏奈	3	吉川南中学校
16	愛　知	鬼澤　理沙	3	御幸山中学校
17	兵　庫	井野　歩実	3	大蔵中学校
18	岡　山	加陽　祐希	3	下津井中学校
19	沖　縄	渡井　　渓	2	神森中学校
20	秋　田	渡辺　明希	3	羽後中学校
21	長　崎	宇都沙智代	3	相浦中学校
22	愛　知	加藤　夕貴	3	御幸山中学校
23	奈　良	田村　翔子	3	生駒市立上中学校
24	栃　木	大川　　舞	3	野木二中学校
25	大　分	河村　枝里	3	原川中学校
26	東　京	千葉樹里子	3	東久留米西中学校
27	富　山	堂端　美加	3	十三中学校
28	山　口	高木　祐花	3	岩国中学校

平成 18 年 3 月 19 日、渋谷：ホテルサープ会議室において、第 4 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告する運びとなりました。今月は筑波大学の山下純平さんの発表内容「ハンドボール競技におけるシュート動作に関する研究」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボール競技におけるシュート動作に関する研究
—ボールハンドリング能力に着目して—

山下純平（筑波大学）

キーワード：ボールハンドリング能力、ステップシュート、三次元解析

Ⅰ. 緒　言

本研究においてのボールハンドリング能力とは、「ボールを巧みに扱い、把持する能力」のことである。

ハンドボール競技において攻撃活動の最終手段はシュートであり、得点はシュートの成否によって決まる。これまで多くのゲーム分析による研究により、勝ちチームのシュート成功率は、負けチームのシュート成功率を上回るということが報告されている。つまり、ゲームで勝つためにはシュートの成功率を高めることが重要である。また、個人のシュート技術に関しては、個人に依存される部分が大部分を占めるため、個人のシュート技術がゲームの勝敗を左右する重要な技術といってもよい。先行研究より、シュート動作においてボールを把持して投げることは、効率的なシュートを行い、またシュート動作の幅を広げる意味で重要といえるということが報告されている。

また、近年、形態面、松やにやボールの発達により、ボールを把持して投げることが可能な選手が増えてきた。今後は、ボールを把持して投げることによる利点を局面ごとに明らかにし、指導方法を確立していく必要がある。

本研究では、ボールハンドリング能力に影響を与えると考えられる形態的要因、技術的要因、体力的要因の３つの構成要因に着目し、それぞれがシュート動作に与える影響についてシュート動作を三次元動作解析を用いて分析することにより、その特性を解明し今後の指導に役立てるための一資料を得ることを目的とした。

Ⅱ. 方　法

１．実験

形態的要因に関する形態測定、技術的要因に関する実験 1 と、体力的要因に関する体力測定及び、シュート動作に関する実験 2 を行った。

２．被験者

本研究における被験者は、筑波大学男子ハンドボール部員の中から選出した。

表１　被験者の特性

被験者	年齢	競技歴	身長	体重	利き腕	競技レベル
S.I	22 歳	13 年	182 cm	70 kg	右	全日本代表、レギュラー
M.K	21 歳	15 年	173 cm	63 kg	右	23 歳以下日本代表、レギュラー
A.M	20 歳	7 年	183 cm	82 kg	右	23 歳以下日本代表、準レギュラー
H.S	22 歳	9 年	180 cm	80 kg	右	都道府県大会出場、準レギュラー
K.D	21 歳	6 年	177 cm	65 kg	右	都道府県大会出場、ベンチ外
T.Y	20 歳	11 年	165 cm	58 kg	右	都道府県大会出場、ベンチ外

３．データ処理

１）分析点

分析点は身体各セグメント端点 23 点および肋骨下端 2 点、ボールの計 26 点であった。

２）三次元座標の算出

2 台のカメラから得られた画像における各分析点の二次元座標とコントロールポイントを Frame-DIAS を用いて 250 コマ/sec デジタイズした。そして、得られた二次元座標とコントロールポイントより算出したカメラ定数から DLT 法によって各分析点の三次元座標を算出した。

３）動作の局面分類

バックスウィング開始から完了までをバックスウィング局面、バックスウィング完了から肘の速度最大点までを上腕フォワードスウィング局面、肘の速度最大点からリリースまでを前腕フォワードスウィング局面とした。

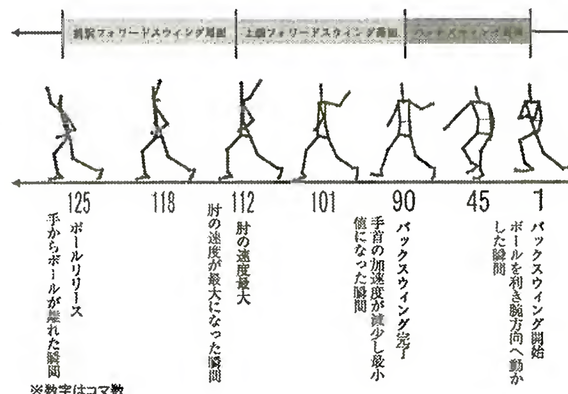


図１　局面分類

4）分析項目

①ボールの初速度②手、手首、肘、肩の最大速度③所要時間（全体、各局面）④ボールの移動距離（全体、各局面）⑤各局面の終了時における肩に対する肘、ボールの位置⑥各局面の最大加速度及び開始時から終了時までのボールの加速度変位

5）考察方法

まず、形態測定、実験1、体力測定で得られたデータより被験者を上位、下位に分類した。

次に、実験2の結果について考察した。まず、得られたデータを分析局面、分析項目ごとに被験者の上位、下位間で有意差検定を行った。

そして、有意差検定によって有意差が認められた項目について、構成要因それぞれがシュート動作に与える影響について考察していった。

III. 結果及び考察

1．被験者の分類

形態的特性、技術的特性は上位、下位各3名ずつ、体力的特性は、上位4名、下位2名に分類することができた。

表2　被験者の分類

	順位	形態	技術	体力
上位グループ	1	A.M	M.K	H.S
	2	S.I	A.M	A.M
	3	H.S	S.I	S.I
下位グループ	4	M.K	H.S	T.Y
	5	K.D	T.Y	K.D
	6	T.Y	K.D	M.K

（白）	上位グループ
（網掛け）	下位グループ

2．形態的要因がシュート動作に与える影響

形態的要因は、ボールの初速度を得るために、上腕フォワードスウィング局面における力の大きさと力の加え方、前腕フォワードスウィング局面におけるボールに対する力の大きさに影響していることが認められた。上位は下位より上腕フォワードスウィング局面で急激に大きな力を、前腕フォワードスウィング局面で大きな力を長い時間、距離にわたって加えていた。その結果、ボールの初速度を得ることができていたということが示唆された。

3．技術的要因がシュート動作に与える影響

技術的要因は、バックスウィングを素早く高い位置で完了させることに影響し、所要時間を短くしている。さらに前腕フォワードスウィング局面におけるボールに対する力の加え方に影響していることが認められた。それによって上位は、バックスウィングを素早く高く完了することができ、上腕フォワードスウィング局面で効率よく腕のしなりを作り出すための準備をしていたと考えられる。また、前腕フォワードスウィング局面でボールに力を加える技術である腕のしなりを作り出し、そのしなりの返しを効果的に利用した力をボールに加える技術は、技術的要因に優れる必要があるということが示唆された。

4．体力的要因がシュート動作に与える影響

体力的要因の下位は、上腕フォワードスウィング局面で急激に大きな力を発揮しようとするとボールを落としてしまうということが考えられる。その結果、上腕フォワードスウィング局面でボールに力を加えるために予めバックスウィング局面で力を加えることによって補完していると考えられる。また、速い肩の速度を得たことは、ボールの速度を動作のスピードによって補完するためだということが考えられる。体力的要因は上腕フォワードスウィング局面でボールに力を加えるために予めバックスウィング局面で力を加える必要性を生じさせるという影響が与えられるということが示唆された。

IV. まとめ

本研究により、ボールハンドリング能力がシュート動作に与える影響が上位と下位の有意差によって認められた。その結果、すべての要因がシュート動作に影響を及ぼしておりそれぞれ特徴を持っていた。つまり、ボールハンドリング能力はシュート動作において重要な一要素であると考えられた。

ボールハンドリング能力は影響すると考えられる3つの構成要因が複合的に発揮された能力であると考えられるため、すべての要因に優れることが理想的である。しかし、形態的要因は、その人の持って生まれた能力であると考えられる。つまり、これからの課題として形態的要因に優れた選手を発掘することと、技術的要因、体力的要因、特に技術的要因に優れた選手を作り出すことが全体の競技レベルの向上に必要な要素の1つであると考えられる。

帯同報告

U－23 世界学生選手権

浜脇整形外科病院 整形外科部長　沖本 信和

2006年7月1日から9日にかけてポーランド･グダニスクにて開催された男女学生世界選手権にチームドクターとして参加させていただきました。2年に1度の開催で、私自身、男子で5回目、女子で2回目の帯同で、ハンガリー、ポーランド、ユーゴスラビア、ポルトガル、ロシアに続いての大会参加でした。北京オリンピック、ロンドンオリンピックの主要メンバーになってくれるであろう選手たちが中心メンバーでした。結果は男子5位、女子4位でした。

6月22日から女子チームに帯同し、ハンガリーのバラトンフレドで強化合宿を行いました。男子はフランスでの合宿でした。合宿前のメディカルチェックでは、感冒など体調不良の選手や関節損傷の選手もいましたが、女子・高野内トレーナー、男子・永井トレーナーのおかげで最後まで戦い抜くことができました。両トレーナーが事前から男女選手のケアをしてくださったことが大変に役立ちました。

海外の遠征では毎回のことですが、水・食事などの生活環境を整えることが医科学スタッフの大きな仕事です。いつものことながら監督・コーチ・サポートスタッフのみならず福地団長・樫塚団長にまで手助けしていただき大変感謝しております。大きな外傷としては男子選手で膝前十字靭帯、半月板損傷が生じましたが、現在は順調に回復しております。

男子チームは優勝候補でした。海外の大会で、ロシアやクロアチアなど多くの監督・コーチからなぜ、こんなに強くなったのか？ナショナル選手は何人いるのか？などたくさん質問されました。佐藤監督、山田コーチ、安達コーチの力です。私自身、大変誇らしい思いをさせていただきました。

女子選手では足関節ねずみ・捻挫があったものの最後まで頑張り抜いてくれた選手や3位決定戦では唇を大きく切ったにもかかわらず止血・初期治療のみで最後までコートに立ってくれた選手もいました。熱いものがこみ上げてきました。他のチームスタッフからは戦術がすばらしく、すごくまとまったチームであると評価されました。短期間でよく、ここまでのチームになったと思います。黄慶泳ヘッドコーチ、斉藤慎太郎コーチ、樫塚団長と選手たちの人間力によるものでしょう。

宿舎では毎日おそくまで、高野内トレーナー、永井トレーナーがケアしてくださいました。彼らがいなければベンチのやり繰りも大変だったでしょう。絶妙の医療スタッフでした。傷縫合や痛み止め（ドーピングの手続きを行いました）注射を行うこともありました。ドーピング検査も無事に終了しました。

徐々にレベルアップしメダルを十分にとれるところまできたアンダー23チームですが、医科学委員で医者である私が言うと皆様からはお叱りをいただくかもしれませんが、学生界と実業団はもちろん日本協会の連携がスムースになってきたことが大きな要因と思います。研修生として早くから海外に行き、学生を卒業しても、実業団から寛大な理解をもらってこの大会に参加できること、また、全日本に選ばれるまでの間にこのような選抜チームで海外経験をつめることが球界にとって、大きな財産になっていると思います。

最後に、私自身も医科学委員として、今後も球界のために役立つように頑張っていきたいと考えます。けがのことなど、気になることがございましたら、noboki4@yahoo.co.jp までご連絡ください。

第11回女子アジア選手権
（2007年世界女子選手権アジア予選）

熊本赤十字病院整形外科　佐久間 克彦

2006（平成18）年7月1日から7月5日まで中国・広州で第11回女子アジア選手権が開催された。選手団は6月17日の事前合宿を終え6月29日に現地入りしていた。私は7月1日現地入りするため事前に電話で倉田トレーナーに選手の状態と気候について問い合わせた。その情報は、耐えられないくらい湿度が高く暑い気候であり、風邪による脱水と暑さによる疲労で数名が体調不良を訴えているとの事であった。

ドクターバッグには補液はありますが、一人で福岡より現地入りした荷物にはオーエスワン（大塚製薬）という補液を経口液にした飲料を持参した。実際、現地へ到着しての広州天河体育館での練習・試合では湿度が高く座っているだけで玉の様な汗が噴き出して不快指数は大変高いものであった。試合後に数名の選手に飲んでもらったが少し塩味であまり好評とはいえなかった。しかし、暑さや運動で大量の汗をかいた後の脱水症状またはその予防としては経口であるため最適の治療と判断された。

大会は、参加国数は4カ国（日本、韓国、中国、カザフスタン）で1日おきの1回戦総当りリーグ戦であった。ホテルから体育館まではバスで20分程度の移動であり負担はかからなかった。気候も徐々に変化して湿度は低下して日本の夏に近い状態と感じるようになってきた。食事は大会期間中ほとんど同じ中華料理のメニューであった。皆が食べ慣れている中華料理ではあったが数日を経たころより選手たちからも徐々に不満の声が生じてきた。しかし、下痢等の腹部症状の訴えは無かった。大会期間中は、選手16人中障害を呈しない選手は1人だけでその他の選手は重症度B－1またはB－2であった。また幸いにも試合中の怪我等で病院へ搬送する大きな怪我人または病人はでなかった。しかし、7月3日の試合でCPの選手が眼瞼裂傷を受傷、その後復視を認めた。そのため、携帯電話にて直接当院の眼科医師にコンサルトして指示を得る事ができ、私自身のストレスを減じる事が可能であった。毎日のケアに関しては、倉田トレーナーが昨年より引き続き長期に渡ってチームに帯同しており、選手とのコミュニケーションも十分に取れており毎日遅くまで獅子奮迅の活躍であった。

ドーピングに関しては、事前合宿にて啓蒙活動を行った。今年からはJADAが競技外ドーピングを本格的に取り組むということで選手たちにも教育が行渡っている印象であった。今大会はドーピングルームの設置はあったが検査は行われなかった。

結果は3位であり、2007年の世界選手権出場権を得ることができた。ベルト･バウアー監督の指導にて上位の韓国、中国に対しても十分勝機を見出せる結果であった。またスタッフ・選手とメディカルチームとの関係も良好であり、今後ますますチームが強化され世界に通用するチームへ発展する一助となれたら幸いである。

第１回女子ユース世界選手権

熊本赤十字病院整形外科　宮本 和彦

【はじめに】

２００６年８月１１日から８月２１日まで第１回Ｕ-18女子世界選手権がカナダ・シャーブルック市で開催されましたが、今回私は8月8日から８月１８日まで帯同ドクターとして活動致しましたのでここにご報告申し上げます。

【選手団の概要】

選手団は役員５名（森安団長、繁田監督、楠本コーチ、私、木下トレーナー）、選手16名の合計21名。

【現地までの移動】

高校総体決勝の翌日（８月８日）に関空を出発（うち前日決勝を戦った５人を含む）という強行軍に加え、米国デトロイト空港まで約12時間半、transitが約１時間半あり、デトロイトからモントリオール空港まで約２時間、さらに空港から宿泊先であるシャーブルック大学まで高速バスで２時間半と選手にとってはかなりハードな移動でありました。この間に、デトロイトでは空港がかなり混雑していたために予定していたフライトに間に合わず約４時間遅れ、さらにモントリオール空港では選手２人のスーツケース及びドクターバックが紛失していたため、baggage claimでこの手続きなどに約１時間ほどを要しました。このために宿舎に到着する予定をはるかに越え、８月８日23時15分にようやく到着しました(この後、荷物は全て見つかり現地に午前３時過ぎに運ばれてまいりました)。

【現地の様子】

シャーブルック市はケベック州南部で、モントリオールの約150kｍ東に位置しており、人口約10万人前後の小さな都市である。シャーブルック大学は丘陵地帯にあり、宿舎からはその町並みがきれいに望むことができました。到着した翌日は昼間は気温が26度でしたが、翌日以降は17-20度であり、また夜間は10度以下に冷え込むこともあり、暑さ対策のみならず夜間の寒さ対策も必要でした（現地の方に尋ねたところ、今年は例年８月の気温より４－３度低いとのことでありました）。

選手村は学生寮を使用しており、３－４階建ての建物が幾つもあり、このうち日本チームには２フロアが割り当てられました。１人部屋と２人部屋があり、それぞれ6-8畳ほどの中にロッカー、冷蔵庫、ベッドがあり、窓が１方向のみありました。換気は入り口をあけると可能でしたが、換気扇はありませんでした。またハウスキーピングは１週間に１回しかなく、ベッドのシーツの交換を当初より毎日して欲しいとの要望をしましたが、予算の関係でできないとされ残念でした。しかし前述のごとく夜間も寒かったために寝汗を多くかくこともなく何とか凌げたところでありました。

洗濯はＩＣカード式の乾燥機能付きの洗濯機が幾つかあり、これらがいつでも使用可能でした。また共用部分に日本語環境も使えるパソコンが数台あり、これが大会開催期間中は無料で使え、国内のニュースなどは知り得ることができました。

【食事及び飲料について】

宿舎から歩いて約10分の所に学内のカフェテリアがあり、大会期間中はミールクーポンを各個人に渡され、決まった範囲内であれば自由に食事をすることができました。この際にミネラルウオーターも手に入れることもできました。さらに売店も隣接しており、補食や飲料水も欲しければ手に入れることが可能でありました。

またミネラルウオーターは毎試合の前後に控え室に各チームごとに用意されており、スポーツドリンクは試合のベンチ横にタンクがあり、これから常に得ることができました。これらより飲料水に困ることは殆どありませんでした。

【会場までの移動】

大会会場までは宿舎からバスで約20分であり、大会開始当初は対戦チーム同士が同じ送迎バスに乗って宿舎を出るようになっていましたが、（恐らく他チームからのクレームで）３日目あたりから各チームごとにバスが分かれて送迎を受けるようになりました。また大会期間中は、カードを提示すると市内を周遊しているバスにも自由に乗れたため、他チームの試合を見学に行く際などにこれを利用したりしました。

【選手団の医務活動】

出発前に選手の常備薬をチェックし、ドーピングに問題が生じない内服薬のみを使用許可しました。また飛行機での移動が長いため、こまめにうがいができるよう選手個人にうがい薬を携帯させました。このことや今回の遠征先はは湿度が低く、日中も過ごしやすかったこともあり、前回帯同した際に多くみられた上気道炎や胃腸障害を起こす人は殆どいませんでした。

また大会中に行われるドーピング検査について、選手は全く未経験であるため、どのような流れで行われるかを選手団全員にパソコンを利用して説明しました。

また軽微な傷害を持っていた選手には傷害予防の方法などについて指導を行いました。大会期間中で私が帯同している間には、試合に差し支えるような傷害は発生しませんでした。しかし私がチームを離れた日に行われた試合で１名が膝周囲を負傷し、その後の試合に出場できなかったことがあり、後悔が残る結果となりました。

【ドーピングコントロールについて】

大会直前にあったテクニカルミーティングでは、予選ラウンドから毎試合後にドーピングコントロールを行うと通達がありましたが、実際は予選ラウンドではゼロでした。さらに予選ラウンドの途中で大会競技責任者にお会いした際に『本当に大会期間中にドーピング検査は行われるのですか？』と尋ねたところ、『オフコース!』との返事でした。どうやら（予算の関係もあるのでしょうが）順位決定戦以上の試合後に各チームから１名ずつピックアップされ、体育館内にある検査室に案内されたようです。日本チームも７位決定戦後に２名指名され、このうちの１名が呼ばれたようでありますが、私が帰国した後にあったために監督が同行されたと伺っております。

このために実際の様子は確認することができず、この点も今回の帯同で心残りな点でありました。

【終わりに】

今回は2000年のアジアジュニア選手権に次いで２度目の帯同でありましたが、前述のごとく帯同できる期間に限りがあり、繁田監督はじめ関係各者に多々ご迷惑をおかけしたことと思います。この場を通じてお詫び申し上げます。

また今回の遠征では出発から前述致しました様々なアクシデントがあり、さらにカナダ滞在中に英国でのテロ未遂事件があり、帰国の際に米国の空港に入るのがlevel 5（後にlevel 4に引き下げ）の厳戒態勢になっているなど通常の旅行では余り体験しないことまで経験させていただき、非常に印象深いミッションになりました。

最後になりましたが、今回私に世界選手権帯同という素晴らしい機会を与えて頂きました協会の方々、さらに帯同に関して御指導、御支援下さいました多くの方々、スタッフに深く感謝申し上げます。

スコアールーム ①

第10回アジア男子ジュニア選手権 兼 第11回ヒロシマ国際大会

開催期日：2006年8月22日（火）～9月1日（金）
会　　場：広島市

▼予選リーグA組

韓　国	35（21－15、14－19）	34	中　国
日　本	36（17－4、19－8）	12	マカオ
韓　国	39（18－10、21－10）	20	インド
中　国	33（20－15、13－15）	30	日　本
韓　国	48（27－8、21－12）	20	マカオ
中　国	32（19－13、13－16）	29	インド
日　本	43（21－10、22－6）	16	インド
中　国	38（16－4、22－7）	11	マカオ
インド	37（18－9、19－15）	24	マカオ
韓　国	33（16－14、17－15）	29	日　本

▼予選リーグB組

チャイニーズ・タイペイ	39（18－9、21－12）	21	香　港
イラン	35（16－16、19－14）	30	カタール
クウェート	34（16－10、18－15）	25	サウジアラビア
クウェート	42（26－13、16－14）	27	チャイニーズ・タイペイ
サウジアラビア	31（15－15、16－16）	31	イラン
カタール	35（18－10、17－9）	19	香　港
クウェート	30（12－12、18－13）	25	カタール
イラン	48（21－7、27－9）	16	香　港
サウジアラビア	41（20－13、21－22）	35	チャイニーズ・タイペイ
カタール	36（17－9、19－15）	24	チャイニーズ・タイペイ
サウジアラビア	49（24－11、25－6）	17	香港
クウェート	30（16－14、14－15）	29	イラン
クウェート	39（17－13、22－12）	25	香港
イラン	40（21－17、19－16）	33	チャイニーズ・タイペイ
サウジアラビア	30（14－15、16－15）	30	カタール

▼決勝トーナメント準決勝

韓　国	35（16－10、19－16）	26	サウジアラビア
クウェート	41（18－17、23－18）	35	中　国

▼9－10位決定戦

チャイニーズ・タイペイ	47（27－8、20－6）	14	マカオ

▼7－8位決定戦

カタール	41（19－9、22－10）	19	インド

▼5位－6位決定戦

日　本	32（17－17、15－10）	27	イラン

▼3位決定戦

サウジアラビア	40（17－12、23－14）	26	中国

▼決勝

クウェート	34（18－12、16－16）	28	韓　国

スコアールーム ②

第61回国民体育大会

開催期日：2006年10月6日（金）～10日（火）
会　　場：兵庫県・朝来市ほか

【成年男子】

▼1回戦

埼玉県	42（23－10、19－9）	19	香川県
愛知県	35（19－9、16－10）	19	京都府
秋田県	37（19－13、18－12）	25	北海道
熊本県	35（18－10、17－13）	23	千葉県
佐賀県	50（26－7、24－15）	22	岩手県
東京都	31（15－9、16－21）	30	福井県
三重県	41（19－10、22－7）	17	大阪府
広島県	41（20－6、21－7）	13	兵庫県

▼準々決勝

埼玉県	46（21－10、25－13）	23	秋田県
愛知県	39（17－11、22－12）	23	熊本県
佐賀県	33（17－10、16－14）	24	三重県
広島県	38（20－6、18－7）	13	東京都

▼準決勝

埼玉県	31（12－16、19－11）	27	佐賀県
広島県	33（17－16、16－15）	31	愛知県

▼3位決定戦

愛知県	36（13－17、23－15）	32	佐賀県

▼決　勝

埼玉県	33（16－14、17－18）	32	広島県

＊埼玉県は3年連続13回目の優勝

▼最終成績

優　勝：埼玉県
2　位：広島県
3　位：愛知県
4　位：佐賀県
5　位：秋田県、東京都、三重県、熊本県

【成年女子】

▼1回戦

東京都　23（12－11、11－11）22　岩手県
秋田県　30（14－15、16－14）29　大阪府
兵庫県　39（21－3、18－4）7　北海道
長崎県　25（13－7、12－12）19　千葉県
三重県　32（16－3、16－9）12　京都府
福岡県　33（16－7、17－14）21　愛媛県
福井県　27（13－8、14－14）22　福島県
茨城県　34（15－10、19－6）16　奈良県

▼2回戦

鹿児島県　47（25－3、22－14）17　東京都
岡山県　36（20－11、16－8）19　秋田県
香川県　22（9－12、13－9）21　兵庫県
愛知県　28（15－3、13－4）7　長崎県
熊本県　38（16－5、22－7）12　三重県
福岡県　25（11－11、14－9）20　山梨県
広島県　37（20－8、17－8）16　福井県
石川県　33（18－10、15－14）24　茨城県

▼準々決勝

鹿児島県　31（16－12、15－17）29　香川県
熊本県　40（22－6、18－8）14　広島県
岡山県　30（20－5、10－8）13　愛知県
石川県　40（18－7、22－9）16　福岡県

▼準決勝

鹿児島県　30（12－14、13－11）28　熊本県
（2－1　延長　3－2）
石川県　28（17－11、11－12）23　岡山県

▼3位決定戦

熊本県　33（16－8、17－8）16　岡山県

▼決　勝

鹿児島県　28（15－9、13－17）26　石川県

＊鹿児島県は2年連続2回目の優勝

▼最終成績

優　勝：鹿児島県
2　位：石川県
3　位：熊本県
4　位：岡山県
5　位：愛知県、広島県、香川県、福岡県

【少年男子】

▼1回戦

京都府　38（17－11、15－21）36　岩手県
（3－2　延長　3－2）
香川県　35（20－7、15－9）16　北海道
宮崎県　27（10－13、17－11）24　三重県
滋賀県　40（20－14、20－9）23　広島県
兵庫県　30（15－13、15－15）28　愛知県
秋田県　31（20－12、11－15）27　熊本県
福井県　40（21－20、19－14）34　山梨県
千葉県　42（21－16、21－19）35　大阪府

▼2回戦

京都府　24（14－11、10－12）23　沖縄県
富山県　25（12－12、13－10）22　香川県
神奈川県　29（15－8、14－9）17　宮崎県
埼玉県　36（19－15、17－11）26　滋賀県
兵庫県　28（14－14、14－12）26　大分県
岐阜県　36（17－13、19－12）25　秋田県
福井県　33（16－12、17－11）23　山口県
茨城県　35（14－13、15－16）31　千葉県
（3－2　延長　3－0）

▼準々決勝

京都府　23（9－12、14－10）22　富山県
神奈川県　26（11－11、15－12）23　埼玉県
兵庫県　42（20－20、16－16）41　福井県
（5－2　延長　1－3）
岐阜県　37（18－19、19－15）34　茨城県

▼準決勝

神奈川県　28（17－9、11－15）24　京都府
兵庫県　37（15－21、22－12）33　岐阜県

▼3位決定戦

京都府　40（20－13、20－11）24　岐阜県

▼決　勝

神奈川県　33（14－13、19－17）30　兵庫県

＊神奈川県は8年ぶり通算4回目の優勝

▼最終成績

優　勝：神奈川県
2　位：兵庫県
3　位：京都府
4　位：岐阜県
5　位：茨城県、埼玉県、富山県、福井県

【少年女子】

▼1回戦

京都府　31（16－9、15－15）24　大分県
埼玉県　26（14－6、12－12）18　宮城県
兵庫県　33（16－9、17－7）16　神奈川県
山口県　27（10－10、17－11）21　愛知県
大阪府　17（6－9、11－5）14　千葉県
宮崎県　29（11－5、18－5）10　北海道
三重県　23（9－12、14－8）20　香川県
富山県　37（20－11、17－9）20　青森県

▼準々決勝

京都府　27（12－7、15－10）17　埼玉県
兵庫県　22（10－8、12－9）17　山口県
宮崎県　21（12－9、9－11）20　大阪府
富山県　35（19－10、16－7）17　三重県

▼準決勝

京都府　26（15－10、11－8）18　兵庫県
富山県　26（16－4、10－8）12　宮崎県

▼3位決定戦

兵庫県　18（14－4、4－10）14　宮崎県

▼決　勝

富山県　28（19－9、9－11）20　京都府

＊富山県は初優勝

▼最終成績

優　勝：富山県
2　位：京都府
3　位：兵庫県
4　位：宮崎県
5　位：埼玉県、三重県、大阪府、山口県

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【茨城】野村正志　【千葉】岡本　聡　【東京】東尾吉信、有田美恵　【神奈川】佐久間　健、久保弘毅、白井　章
【富山】若松路夫　【石川】中田絵里、中田麻里　【愛知】秋田真理子、坪井夕香　【滋賀】高谷亮太
【大阪】赤星　明、西端美重子、平山廣菜、中塚富佐子、西田佳子、小藪律子　【岡山】福岡誉之
【広島】塩屋正子、西山絵理　【佐賀】久保田秀光　【長崎】藤山聖子

【12月の行事予定】

【会議】…………………………………………………
12月24日(日)　常務理事会(愛知)

【大会】…………………………………………………
12月1日(金)～15日(金)
第15回アジア競技大会(カタール・ドーハ)

12月20日(水)～24日(日)
第59回全日本総合選手権大会(愛知県・名古屋市)

12月24日(日)～27日(水)
第15回JOCジュニアオリンピックカップ(大阪府・堺市)

■お詫びと訂正

前号(11月号)の表紙写真の説明で「神森中学の平良大輔選手」とご紹介しましたが、正しくは「神森中学の又吉裕喜選手」でした。お詫びして訂正させていただきます。

前号(11月号)の14ページ、ジャパンカップ・高山氏の原稿で「8月8～12日の日程で、全日本男子チームの強化合宿…」とあるのは、正しくは「8月2～8日」でした。お詫びして訂正させていただきます。

■北京オリンピック出場応援キャンペーン募金

第61回国民体育大会(兵庫県)　11,503円

HAND BALL CONTENTS Dec.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

asics
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm



JAPAN
JOC
オフィシャルパートナー
©1993 JOC® JOC P 002

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七六号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
平成十八年十一月二十六日印刷
平成十八年十二月一日発行
東京都渋谷区神南一−一−一
電話 代表〇三−三四八一−二三六一
振替 〇〇一二〇−七−一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円